

障がい者雇用のために利用できる助成金制度のご案内

トライアル雇用助成金(障害者トライアルコース、障害者短時間トライアルコース)

ハローワーク等の紹介により、一定期間試用雇用する場合に助成金を支給します。

問合せ先 大分労働局 大分助成金センター TEL.097-535-2100



特定求職者雇用開発助成金(特定就職困難者コース、発達障害者・難治性疾患患者雇用開発コース)

ハローワーク等の紹介により、継続して雇用する労働者(雇用保険の一般被保険者)として雇い入れた場合に助成金を支給します。

問合せ先 大分労働局 大分助成金センター TEL.097-535-2100



障がい者を新たに多数雇入れる企業等への助成金

知的障がい者及び精神障がい者を新たに5人以上雇用する企業等に対し、受入れに必要な環境整備に係る経費の一部を助成します。

問合せ先 大分県 障害者社会参加推進室 TEL.097-506-2815



その他 雇用環境整備のための助成金

事業主が障がい者の雇用にあたって、施設・設備の整備や雇用管理のための特別な措置を行わなければ、新規雇入れや雇用継続が困難と認められる場合に助成金を支給します。

- 障害者作業施設設置等助成金
- 障害者介助等助成金
- 職場適応援助者助成金
- 重度障害者等通勤対策助成金 など

問合せ先 (独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 大分支部 高齢・障害者業務課 TEL.097-522-7255



※支給条件や支給額など詳細は、それぞれの窓口へお問合せください。

大分県の障がい者雇用支援制度

障がい者雇用アドバイザー

事業主と就職希望者のマッチングや就職後の職場定着に関する支援を行います。

問合せ先 障害者就業・生活支援センター(裏面参照)



障がい者職業訓練コーディネーター、コーチ

事業主と訓練希望者のマッチングや訓練及び訓練後の就職に向けた調整を行います。

問合せ先 高等技術専門学校(裏面参照)



特別支援学校ジョブ・コンダクター

特別支援学校の一般就労の困難事例に関する支援を行います。

問合せ先 特別支援学校(裏面参照)

障がい者雇入れ体験

短期間(最大10日間)の雇入れ体験を希望する事業主に対し、障がい者とのマッチング支援を行います。また、事業主には委託料として、3,000円/日を支給します。

問合せ先 障害者就業・生活支援センター(裏面参照)



ともに働く！ 就労系 福祉事業所 紹介

社会福祉法人 周美会
鶴桜苑 カフェレストラン
萬來舎
(就労継続支援B型事業所)
〒874-0915 別府市桜ヶ丘5-2
TEL.0977-84-7300



1



2

就労系福祉事業所とは？

就労系福祉事業所とは、障がいのある方に対して、生産活動の提供や就労に必要な訓練・支援などを行う通所型の福祉施設です。

就労継続支援B型事業所

雇用契約を結ばず軽作業などの生産活動の機会の提供を行い、就労に必要な訓練や支援を行います。



3



4

1.事務局長の羽生正慶さんとAさん。2.萬來舎に新たに誕生したアラス席で接客するAさん。笑顔が心にかけているそう。3.外部連携の内職事業の風景。4.萬來舎の店内。

障がい者と 地元企業の橋渡し役に

地域と共に歩む

鶴桜苑は別府にある就労継続支援B型事業所。精神障がい、発達障がい、知的障がい、身体障がい、難病と様々な障がいを持つ人が通っており、レストラン事業(萬來舎)、アグリ事業(権吾の原木栽培)、施工事業、内職事業の中から特性や希望に合わせて仕事を運び、スキルの習得や、その先にある一般就労を目指しています。現在障がい者の自社雇用への準備と、外部の就労先の開拓を同時に進めています。障がい者と企業は、マッチング次第だと思います。なんでもそつなくこなせる訳ではありませんが、特定の分野が得意な人、突出した能力を持つ人、少しの配慮で十分な人などいろいろな人がいる。そこがうまく噛み合えば十分戦力になると考えています。別府には労働力が不足している企業が多いという背景もあり、今年から企業まわりを始めました。その話すのは事務局長の羽生さん。大分県中小企業家同友会別府支部障がい者問題委員会の委員長も務めており、障がい者と地元企業の橋渡し役として奔走しています。



▲接客や洗い物を担当するAさん(22)。「常連さんから声をかけてもらうのが嬉しい。クリスマスにはプレゼントをもらいました」と笑顔で教えてくれました。

※1 福祉事業所の利用者から委託を受けて、雇用へシフトさせる取り組みを行っている。
※2 1965年日本バラスポーツの父といわれる中村裕医師が創設した障がい者就労支援の草分け的存在。

鶴桜苑は地域との関わりが深いのも特徴です。閑静な住宅地にあるカフェレストラン萬來舎には地域の人や、近くにある別府大学の関係者が足繁く通い、お客様と障がいのあるスタッフが和やかに交流する風景も珍しくありません。他にも、地元のサンヨーヒーパースと共同でメニュー開発を行ったり、教育機関と連携したり。様々な取り組みを通じて障がい者の理解を深めるとともに、新たな可能性を見出そうとしています。別府は太陽の家。もあり障がい者に理解があるまち、地域を巻き込んで、障がい者が活躍できる場を増やしていきたいと嬉しそうですね。羽生さんの言葉通り、鶴桜苑は福祉事業所の枠を越え、障がい者、地域、地元企業をつなぐ重要な拠点になっています。